

20、30代の大学受験経験者なら、「出口の現代文」と聞いてピンと来る人も多かったろう。

勘やセンスで解くことが日常化していた現代文に「論理」を体系的に導入して20年。革命的と称賛された講義に生徒が殺到し、現代文の参考書を累計500万部以上売ったという、いまなお現役の力リスママ予備校講師である。

「僕の講義は地味。世間で言う人気講師のような派手さはない。ただ、生徒が一生頭を使えるようにと思って、システムティックに教えてきただけ」

IT（情報技術）にも素早く対応。同じ場所と時間での一斉授業にこだわらず、DVDとインターネットをフル活用した個別学習システムを全国に提供している。

「唯一の共通言語は論理だけ」をモットーに、生徒の論理的思考能力を鍛え上げる



ひろし

大学受験予備校「S.P.S.」主宰 出口汪さん

東京都出身。京都府亀岡市の中学、高校に通い、3浪の末に関西学院大文学部へ進学。「浪人時代は勉強が嫌で嫌でしようがない、現実逃避型の文学青年だった」と振り返る。

大学3年から博士課程修了までの7年間、森鷗外を研究して近代文学理解の幅を広げた。在学中から予備校講師として関西地方で頭角を現し、大学院を出てから大手校に引き抜かれた。

ピーク時には、週30時間以上の講義を新幹線で東京と大阪を往復しながら行った。予備校と出版社を次々と立ち上げ、テキストや一般書を年間数十冊も執筆、ラジオ・テレビ出演もこなした。

「追いつめられたときほど頭は冴え、忙しい時ほど進歩する」



教育界に風雲呼ぶ



18年10月、小説「水月」（講談社）で念願の小説家デビュー。サインを求められることも。宗教家、出口王仁三郎の曾孫でもある

6年前、これまでの指導法を廃棄させた「論理エンジン」という独自の教材を生み出した。中高校生を想定した日本語トレーニング教材で、これまでに全国約1300の私立中学・高校で導入されている。合格実績が伸びる学校が後を

絶たず、小学高学年から社会人までもが利用している。「『論理エンジン』は、最初は塾などで受け入れられると思っていましたが、飛びついたのは学校現場の先生だった。公立校でも次々に採用されている」

人間の脳をコンピュータのOSとソフトに例え、「OSに相当するのが論理的思考能力。OS強化を怠って、ソフトに相当する知識ばかり詰め込んでフリーズするだけ」と明快に説明する。

長らく受験教育の一線に汗を流してきた経験から、安倍晋三総理が政権のスロ・ガンとしている「教育再生」に違和感を覚える。「何を問題にしているのかがあいまい。再生会議のメンバーは現場のことを理解していない」

さらに、「ゆとり教育は否定しないが、国は知識を詰め込む量の増減しか考えていない。根本的な解決にはなっておらず、日本語の使い方、頭の使い方を変えないといけない」「愛国心や道徳心も、子供たちが物事を正しく判断する力とマスキが公正に報道する状況がなければ、安易に教えるべきではない」と力を込める。

数多くの受験生に「春」をもたらしてきた力リスママ講師。その信念が、学校教育界でも花開こうとしている。

(山本雄史)

フォーカス・オン

3、4月のテーマ 春

合格 請け負い人